

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2020.12 vol. 176

コロナ禍での大規模災害訓練

～初めての試み～

2020年11月7日に第5回目の院内大規模災害訓練を実施しました。例年は桜島大爆発での地震や津波の発生下での院内情報共有と傷病者の受け入れ（トリアージと治療）のシミュレーションを行い、総参加人数は模擬患者を含めて200人近くでした。しかし今回はコロナ禍という制約のもと参加人数を大幅に縮小して病院避難シミュレーション訓練を行いました。

以下訓練の概要を記載します。

I. 設定

AM 7時頃より震度2-3の地震が頻発

AM 9:00に気象庁の発表。桜島での火山性有感微動が増加。桜島の地下から火口へのマグマの供給量が増加しており噴火警戒レベル4。

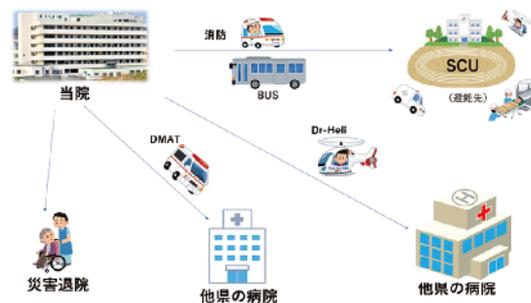
AM 9:20に鹿児島県庁は桜島島内での噴石や火砕流など重大な被害が発生する可能性が高まったと判断。島内全域に避難を指示。折からの5m/sの強い東風により桜島から13km以内の鹿児島市ほぼ全域は1mを超える降灰が予想された。鹿児島県庁と市は共同で住民避難指示を発令した

II. 参加部門

- ①当院本部
- ②当院外来部門
- ③当院病棟部門

III. 訓練目標

- ①病院避難の方針や決断を行う指揮命令系を確立できる
- ②避難患者数や患者の状態、患者家族などの付帯情報をスムーズに把握する
- ③患者の病態と背景を考慮した搬送順位が決定できる
- ④団体支援（DMAT/DPAT等）を受け入れる体制を整える
- ⑤訓練終了後に各参加部門での病院避難での問題点を抽出する



上述の条件で訓練を行いました。当院では病院避難の訓練は初めての試みでした。病院避難の概要を図に示します。大部分の軽症者（安定した術前や検査入院患者）は災害退院となります。また医学的に余裕のある中等症者は他の市町村の役所や体育館などへ一時避難させます（今回当院は県庁の指示で加治木支所に病院避難の指示を受けた設定）。しかし避難先は薬剤や医療設備はありません。避難後はそこを拠点に転院先などの交渉と決定を行います。さらに重症者で呼吸器や複数の点滴が必要な患者は病院避難場所に移すことには治療継続の観点や医療安全の観点から問題がありますので、県内外の別の病院に空路や陸路で直接搬送しなければなりません。以上の条件と概要で訓練がスタートしました。県庁から当院本部に病院避難の指示→避難場所→搬送手段（バス、DMAT、福祉タクシーなど）と搬送手段提供時刻が段階的に電話で報告されるのを起点に、本部が各部門と情報共有しながら避難計画を立てて、各部門に決定事項をフィードバックしていく一連の流れを訓練しました。前例もなく、事前に訓練のシナリオもほとんど知らせていない状態での訓練でしたが、各部門の真剣な取り組みと自由な発想での問題解決により、比較的スムーズに各訓練目標をクリアできていた印象でした。今後アンケートや各部門での振り返りをもとに、今回の病院避難における問題点を抽出して、マニュアル作りなど今後につなげていきたいと思います。

(文責：救急科部長 田中 秀樹)



第7回 がん市民WEB公開講座

毎年秋に、がん市民公開講座を開催してまいりました。本年も11月14日に県民交流センターで予定しておりましたが、コロナ禍の中、市民の方々と会場においての対面での開催は断念せざるを得ませんでした。そこで、がん診療部門のスタッフの意見をもとに、「鹿児島医療センター がん診療 2020」として、11月1日から12月31日の間、ホームページ上でWEB公開いたしました。内容は、

1. 各診療科のがん診療

担当するがんの特性や診療に関すること、トピックスを概説しております。

- ・血液内科；血液内科について
- ・腫瘍内科；診療内容の紹介とAYA世代のがんについて
- ・消化器内科；大腸がんの診断と治療
- ・泌尿器科；泌尿器科について
- ・耳鼻咽喉科；頭頸部がん
- ・婦人科；当院で行った高齢子宮体がん患者の調査からお伝えしたいこと
- ・外科・消化器外科；当科の消化器がん外科治療の現状2020
- ・放射線科；がん診療における放射線科の役割
- ・歯科口腔外科；がん患者さんの口腔ケア
- ・皮膚腫瘍科・皮膚科；紫外線と皮膚がんについて

2. 地域がん診療病院

当院との連携施設となっている、国立病院機構南九州病院の診療科から

- ・呼吸器科；肺がん

3. がん診療の支持体制

各部門から、がん診療では欠かすことができなくなっている支持療法についてその役割を話させていただきます

- ・薬剤部；がん患者に対する薬剤師の役割
- ・リハビリテーション；がんのリハビリテーション
- ・栄養科；食事に困った時のポイント
- ・看護部；がん看護領域の専門・認定看護師の活動
- ・がん相談支援センター；がん相談支援センターについて
- ・緩和ケアチーム；緩和ケアチームについて

というものでした。各担当者が、パワーポイントでスライドを作成し、スライドショーに自身の声でナレーションを入れるという手作りのビデオであったので、がん診療と同様、個性・多様性に富んだ内容となりました。視聴していただいた市民の皆様に十分お伝え出来たかはわかりませんが、診療に真摯に取り組んでいるスタッフの姿勢をご理解いただけていたら幸いに思います。

今回の企画が、どの程度視聴いただいたのか、また、有効であったかは現時点ではわかりませんが、作成された資料は、ホームページにがん市民公開講座のアーカイブとして残す予定です。来年は、コロナ禍が収束し、また会場で公開講座を開けることを祈っておりますが、今年という一年がいろいろな意味で記憶として残る年となることかと存じます。

連携施設のスタッフの皆様にも、是非とも御視聴の上、ご意見等頂きましたら更なる連携が進むことかと期待しておりますのでよろしくお願いいたします。

(文責：統括診療部長 松崎 勉)



入退院支援への取り組みと システム導入について

外来で患者の情報収集を行い、多岐にわたる問題に多職種で対応し、入院前から退院後の生活を見越した支援を行うPFM(Patient Flow Management)が評価され、2018年診療報酬改定で入院時支援加算が新設されました。

当院では2018年4月より一部診療科にて入院前支援を実施していました。この度、全診療科の入院前支援導入を目標に体制の見直しを行い、また、2020年11月より入退院支援システムを導入し稼働しました。導入までの取り組みについて紹介致します。

2020年1月に先行施設である佐久医療センターへ多職種7名で見学に行きました。2月の管理者研修にて、佐久総合病院・佐久医療センター副統括院長の西澤延宏先生に「外来から始まる入退院支援(PFM)～医療の質の向上と働き方改革への対応～」という演題で講演をしていただきました。

その後、松崎統括診療部長をチーム長とし、入院前支援推進プロジェクトチームを立ち上げ活動しています。各診療科医師・看護師・医師クラークへ新体制導入の経緯を説明、支援方法について話し合いを重ね、4月より新体制を開始しました。

入院前支援の具体的な流れとしては、入院日決定後に医師が入退院支援依頼指示書を発行、看護師より患者様に問診票を記入していただくようお願いしています。同日または入院前検査日に入院前支援専従看護師や外来看護師が、問診票を用いて入院オリエンテーションや病歴確認、リスク評価等の入院前支援を行っています。必要に応じて薬剤師、栄養士、MSWや退院調整看護師も介入しています。入院前支援を行うことで、入院前から患者さまの抱える身体的、社会的、経済的問題を明らかにして、退院支援をスムーズに行うことができるようになりました。また、スタッフの業務負担軽減にもつながっています。患者様からは「入院前から心配事を相談することができてよかった。」「入院中や退院後をイメージすることができ、安心して治療や入院生活を送ることが出来た。」等のお言葉を頂いております。現在17診療科中8診療科の入院前支援を段階的に行っており、今年度中の全診療科の入院前支援導入を目標にしています。

また、入院前支援をより充実させるため、入退院支援システム導入に向けてのワーキンググループを結成しました。入退院支援システムを導入することで、対象患者の早期把握、支援プロセスの視覚化、確実な算定、職員の負担軽減を目指しました。医療情報管理室とともに、入退院支援業務運用フローの確定、文書やテンプレートレイアウトの確定、スタッフへのカルテ操作説明やリハーサルを段階的に行い、11月2日に入退院支援システムが稼働しました。稼働して間もないですが、文書や記録の進捗が一覧上で確認でき、簡単な操作でコスト入力ができるようになり、算定漏れも少なくなりました。また、入力情報のリレーション機能で重複入力がなくなり、文書作成も容易となったことから業務効率が向上しました。

実施する中で、運用上の課題や改善すべき点も見えてきました。調整が必要な部分はありますが、患者様に寄り添った個別性のある関わりはもちろん、地域の医療機関の皆様、介護・福祉サービス事業所の皆様とも、これまで以上に速やかに丁寧な連携が図れるよう取り組んでいきたいと思っております。

(文責：入院前支援推進チーム MSW 水元 玲子)



新任紹介



心臓血管外科
安村 拓人

2020年10月より心臓血管外科に赴任しました。鹿児島医療センターは初期研修医、外科の後期研修医時にお世話になり、今回3年ぶり3回目の赴任になります。忘れていたことも多く、初日より多くのスタッフの方々に助けていただいています。心臓血管外科医として働き始めてからは1年半と未熟者ですので、厳しくご指導いただけましたら幸いです。どうぞよろしくおねがいします。



心臓血管外科
大野 文也

2020年10月より心臓血管外科に赴任しました大野文也です。鹿児島医療センターは初期研修医時にお世話になりました。前任地は川内市医師会立市民病院で、外科専攻医として勤務していました。これから各方面のスタッフの方々にはご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、何卒よろしくおねがいいたします。



耳鼻咽喉科
安藤 由実

鹿児島大学病院から10月に当院へ赴任しました、安藤と申します。鹿児島医療センターには研修医時代にも5か月間勤務させていただきましたが、その際お世話になった先生方やコメディカルの方々とまた働くことができることを大変嬉しく思っております。医師としても耳鼻科医としても未熟者ですが、こちらで多くの経験を積み、自分のものにできるよう尽力いたしますので、皆様、ご指導のほどよろしくおねがいいたします。



婦人科
古園 希

10月より婦人科で勤務させていただきましたことになりました。福岡県北九州市生まれ、2018年佐賀大学卒業、2020年4月よりご縁があり、鹿児島県での産婦人科医生活がスタートしました。まだまだ未熟であり、スタッフの皆様方にはお世話になる部分が多々あると思いますが、日々成長し、鹿児島県での婦人科医療に貢献できるよう精進して参りますので、皆様どうか何卒宜しくおねがい申し上げます。



麻酔科
東 亮子

10月より麻酔科に勤務させていただきましたことになりました。鹿児島医療センターでは、初めての勤務になります。また時々病棟内で迷子になったりもしますが、麻酔科や各科の先生方、スタッフの皆さんのお力を借りながら頑張っていきますので、どうぞよろしくおねがいいたします。



麻酔科
内田 明子

10月より麻酔科で勤務することになりました。旧姓、大宮司明子です。鹿児島生まれ鹿児島育ち。大学卒業後16年目?17年目?です。同じく10月より勤務している東とは同期です。市立病院勤務がのべ10年くらいと長いですが、鹿屋や奄美大島でも勤務していました。現在は1人娘を子育て中のため、週3回の時短勤務とさせて頂いています。限られた時間ですが、頑張りますのでよろしくおねがいします。



皮膚腫瘍科
平野 唯

10月より京都から赴任しました平野唯と申します。地元関西を離れるのは初めてで不安なことも多々ありますが、松下先生の元でしっかりと学び、実りのある研修にしたいと考えております。まだまだ未熟でありご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、少しでも力になれるよう精一杯頑張りますので、何卒宜しく御願い致します。

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223) 1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

【地域連携】 蘭田・西田・西辻・篠崎・迫田・椎原・出口・吉留・櫻木・田辺・山之内・吉村

【がん相談】 松崎・新川・水元・原田・菊永・杉本

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

